

第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、平成27年度第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について次のとおりお知らせします。

1. 日時

平成28年2月16日（火曜日） 15時00分～17時00分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られた。

4. 主な意見等

- 流通面からみると、トドマツに関しては、製材用原料は今のところ不足感無くこのままの状態が続くのではないかと感じている。合板用については、今後も東北向けは多少増加していくものと思っている。カラマツに関しては、製材用の需要も出てきているが、合板用の移出も順調なので若干不足感がある。
- トドマツについては、製材品の動きは例年並みで特に変化なく在庫もほぼ前年並みであり、特に大きな変化もなく供給調整などの必要はないと思う。
- トドマツの原木在庫は不足していることはないが安心できる量でもないので今後の状況に期待。
- カラマツについては、地域で差があり、特に十勝では民有林の生産量が前年より減っていて、丸太の入荷が少なく在庫は厳しい状況。
- 民有林では、今年度は特に未利用間伐を先行してきたので、搬出間伐の事業が後ろにずれ込んだため製材用原木が少なく、需要と供給にギャップが出ているものとする。運材がスムーズに進めば2月くらいから状況が好転していくものと思われる。
- 製紙用のチップ原料については、カラマツが足りなくて集荷に苦労していると聞きいており、広葉樹も引き続き不足している状況。

- 江別のバイオマス発電施設が本年から本格稼働となる中で、製紙原料とバイオマス発電燃料のいずれも在庫が不足しており、今後社有林の増伐とともに、国有林と民有林からの集荷を拡大したいと考えている。

- 苫小牧のバイオマス発電施設では、昨年6月から集荷を始めて、1月末までに集荷計画の約6割近くを集めた。3月まで最低8割近く集まる目処はついたが当初計画までは届かない見通し。また、去年函館から船やJR貨物コンテナで2回ほど運搬する実証試験を行った。船はコストをどこまで下げられるか、JR貨物コンテナでは幅が決まっている中で、積み方によって効率性を上げる事が出来るかなど検討しているところ。

- 今年はオホーツク方面で雪が多いが、全体的には去年と比べると少ない状況。一部、空知や小樽方面では降雪量が去年より増えていると思うが、それでも平年よりは少ないので、素材生産事業は順調に進んでいると思う。

- トラック運転者や素材生産業者の人手不足もあり、今の素材生産と運材の能力で、今後バイオマス事業が本格化した時に十分に原木が手当てできるのか心配している。